

神奈川県中学校体育連盟バレーボール専門部
平成 26 年度 審判養成講習会（資料）

この資料は、平成 26 年 4 月 26 日付で(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部より配付されている「**初版**6人制ルールの取り扱いについて」の内容をまとめたものです。原版は、日本中体連のホームページにアップされる予定です。

[要旨]

平成 26 年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における 6 人制ルールの取り扱いについて

1 競技参加者の行為に関する事項

規則 20 行為の条件

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通してのみ説明を求めることができる。

20.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

20.2.2 チームメンバーは試合中、互いに話し合うことが許される。

- ① 競技参加者（スタッフ・競技者）が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティーを科せられる。
- ② 監督やコーチなどが、JURYや審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティーが科せられる。
- ③ プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- ④ 監督は、試合終了後、主審・副審にフェアプレーの精神で「握手」を交わす。

中体連

※ 不法な行為に対する制裁の方法は、規則 21.1「軽度の不法な行為」の項を参照。

※ 試合終了後の主審・副審との握手については、これを奨励する。強制はしない。

2 リベロに関する事項

規則 19.3.2 リベロリプレースメント（入れ替え）

19.3.2.4 その他のリプレースメントは、ボールがアウトオブプレーの状態、サービスのホイッスルの前でのみ行うことができる。

19.3.2.5 サービスのホイッスルの後であっても、サービスヒットの前であれば、リプレースメントは拒否されない。しかし、これは許された手続きではなく、さらに再発した場合は、遅延行為に対する罰則が適用されることを、そのラリー終了後、ゲームキャプテンに伝える。

19.3.2.6 リプレースメントの遅れが再発した場合は、プレーを直ちに止め、遅延行為に対する罰則を適用す

る。次にサービスを打つチームは、遅延行為に対する罰則の段階により決定される。

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントは、(主に)以下の事例を含む。

- ・リベロリプレイメントの間に完了したラリーがないとき。
- ・セカンドリベロや入れ替わった選手以外と入れ替わったとき。

不法なリベロリプレイメントは、不法な選手交代と同様とみなされる。

不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員により訂正され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

1. サービス許可のホイッスル後、サービスが打たれる前にリプレイメントした場合は、ラリー終了後、ゲームキャプテンに注意が与えられる。繰り返した場合は、プレーを直ちに止めて遅延の罰則が科せられる。この時のリプレイメントは認められない。ただし、この時、リベロがポジション4に残らなければいけなかったり、アクティングリベロがプレーをできなくなった場合は、ラリーが完了していてもリプレイメントが許される。
- 2 不法なリベロリプレイメントが行われた時、アシスタントスコアラーは、サービスの許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし、指摘しなければならない。そして、チームには遅延の罰則が与えられ、元のポジションに戻し、リベロリプレイメントは認められない。しかし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。
- 3 不法なリベロリプレイメントの指摘が、サービスのヒット後になってしまった場合は、不法な選手交代として処置をする。この場合も、元のポジションに戻すが、ラリーが完了しているため、その後のリプレイメントについては認められる。

中体連

※ (1)中体連では、不法なリベロリプレイメントをさせないことを原則とし審判にあたる。

※ (2)サービスのヒット前であれば指摘し、制裁することなくチームに訂正させる。

※ (3)サービスのヒット後に気づいた場合は、一般と同じ取り扱いをする。

<「リベロプレーヤーシステムに関する付則」を参照>

規則 19.4 新しいリベロの再指名

19.4.1 リベロは負傷や病気、退場、失格によりプレーをすることができなくなることがある。

監督または監督が不在の場合はゲームキャプテンは、いかなる理由であってもリベロがプレーできなくなったことを宣言することができる。

19.4.2 リベロが1人のチーム

19.4.2.1 規則 19.4.1によりリベロが1人しかいなくなった場合や、1人しか登録されていない場合では、そのリベロがプレーできなくなったときやプレーできなくなったと宣言されたときには、監督(監督不在の場合はゲームキャプテン)はその時点でコート上にいない他の選手(リベロと入れ替わった選手を除く)を、試合終了までリベロとして再指名することができる。

リベロ1人のチームで、リベロが失格や退場となった場合でも、そのチームは新しいリベロを再指名することができる。

中体連

中体連においては、リベロ2名のうち1名が「けが・病気・不調・退場・失格」等のいかなる理由であっても再指名が可能である。(常時2名のリベロを持つことができる。)しかし、何らかの理由により交代させられたリベロは、その試合を通してリベロの権利を失う。また、生徒役員が行うアシスタントスコアラーに混乱を生じさせないために、交代させられたリベロプレーヤーは、ジャージやTシャツ等を着用し、ベンチに座るかウォームアップエリア内にいなければならない(退場・失格の場合は指定の位置)。再指名されたリベロは、その試合を通じてリベロとしてプレーしなければならない。

※ 必要に応じて、チームに指導していく。

1 リベロの再指名の方法は次のとおりである。

① 監督がブザーを押し、副審に、口頭で「リベロの再指名」を要求する（ハンドシグナルは示さない）。その時、リベロと再指名される選手は、リベロリプレイスメントゾーンに、ナンバーパドルを使用する場合は、ナンバーパドルを持って準備をして立っていないなければならない。（再指名された選手はビブスを着るか、アクティグリベロと同じユニフォームを着る。しかし番号は自身と同じものを付ける。ビブスは各チームで準備する。）

◆リベロが、コート上にいるときでも、再指名することができる。

◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。

② 副審はホイッスルし、記録員にリベロの再指名の要求であることを口頭で伝える。この際ハンドシグナルは示さない。

③ 記録員は、再指名した選手が、リベロと交代した選手でないことをアシスタントスコアラーに確認し、片方の手を上げる。（リベロがコート上にいるときでもできる。）

④ 副審は、リベロの再指名を許可する。

⑤ 記録員は記録用紙の特記事項欄に、アシスタントスコアラーはリベロコントロールシートのコラムに、それぞれリベロの変更を記載する。

（記載例）

Aチームが第1セット13：14のときリベロの再指名の要求があった場合

（リベロ No. 14、再指名の選手 No. 9）

<記録用紙> リベロの再指名/A/1（13：14）No. 14→No. 9

<リベロコントロールシート> リベロの再指名の記載欄に記載する。

⑥ 記録員は、アシスタントスコアラーの記載が完了していることを確認したら、両手を上げて副審に知らせる。副審は、主審に両手を上げて知らせる。

2 セット間にリベロの再指名をしたいとき、監督はリベロを再指名することを副審に伝える。副審はスターティングメンバーの確認をした後、リベロの再指名の手続きを行う。

3 リベロとして再指名された選手は、試合を通じてリベロとして試合に出場する。プレーが続行できない（プレーの調子が悪い等）と宣言されたリベロは、再指名をした時点で、試合に戻ることはできない。

4 チームキャプテンがリベロとして再指名された場合は、新たにチームキャプテンを指名する必要がある。

中体連

中体連もほぼ同様に取り扱う。異なる点は、「再指名用のビブスは、大会主催者側で準備する」ことである。4のチームキャプテンの指名も同様に取り扱う。

※ 「リベロの退場または失格」については省略しています。

3 不法な行為に関する事項

規則 21.1 軽度の不法な行為

軽度の不法な行為は、罰則の対象にならない。主審には、チームが罰則レベルに達しないように防ぐ義務がある。

これは2段階で処置される。

ステージ1： ゲームキャプテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2： 該当する選手にイエローカードを使用して警告をする。この警告はそれ自体が制裁ではないが、その試合においてそのチームメンバーが（さらにチームが）次からは罰則になることを示している。これは記録用紙に記録されるが、直ちに罰則を受けることはない。

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。また、軽度の不法な行為の程度によっては、1回目であってもステージ2から適用される場合がある。
- 2 チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。
このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも、再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例) **ステージ1** → **ステージ2**
選手 No.5 No.6 → No.7 → No.8
処置 口頭でチームに警告 イロカード レッドカード レッドカード

- 3 チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度な不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記の**ステージ2**から始まり処置を行う。

(例) **無作法な行為** → **軽度の不法な行為1回目** → **軽度の不法な行為2回目** → **軽度の不法な行為3回目**
選手 No.5 No.6 → No.7 → No.8
処置 レッドカード イロカード レッドカード レッドカード

- 4 セットの最終ポイント決定後の不法な行為に対する処置は、その時点で行い、直後のセット開始時に罰則を適用する。

中体連

- ◇ 不法な行為の内容によって（特にチームスタッフの大人）は、ステージ1を適用せずにステージ2からの適用となる場合もある。チームスタッフに対するステージ1、ステージ2の適用では、ゲームキャプテンと副審を同時に呼び、その内容を必ず副審からチームスタッフに伝達することに注意する。
- ◇ 上記4の取り扱いでは、中体連も同様とする。試合終了後の不法な行為は、Remarks欄に主審が記載する。

4 試合の遅延に関する事項

規則 16.1 遅延行為の種類

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は、遅延行為である。主なものは以下のとおり：

- 16.1.1 正規の試合の中断を遅らせること。
- 16.1.2 試合を再開するよう指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。
- 16.1.3 不法な選手交代を要求すること。
- 16.1.4 不当な要求を繰り返すこと。
- 16.1.5 チームメンバーが試合を遅らせること。

- ① サーバーがボールリトリバーからのボールを故意に受け取らなかつたり、普通にサービスゾーンに来なかつたりした場合には、チームは遅延行為に対する罰則を受ける。
- ② T0及びT10の終了後、コートへ戻る行為が遅い場合も遅延行為となる。
- ③ 選手やベンチスタッフが、床の濡れた部分を拭くために、審判員やモッパーにモップの要求をすることはできない。その要求は、遅延行為の対象となる。

中体連

中体連も同様に取り扱う。

規則 16.2 遅延行為に対する罰則

- 1 ディレイワーニングの罰則は、イエローカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。
- 2 ディレイペナルティの罰則は、レッドカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。

中体連

中体連も同様に取り扱う。

5 スクリーンに関する事項

規則 12.5 スクリーン

- 12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サーバーおよびサービスボールのコースを隠すことでスクリーンが形成される。

- ① スクリーンを形成していることが明らかな場合、チームに対して注意が与えられる。再発した場合は、マイナーミスコンダクト（軽度の不法な行為）として罰則を適用する。
- ② スクリーンの反則が成立するのは、サービングチームの選手の妨害によって、サービスをレシーブする選手が、サーバーおよびサービスボールの軌道を隠されて、見えなくなる時である。

中体連

中体連でも同様に扱う。再発を防止するためにも、選手が理解しやすい平易な言葉で指導する必要があるが、指導のために多くの時間を割くことは避けなければならない。

6 選手交代に関する事項

規則 15.10 選手交代の手続き

- 15.10.4 チームが2組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合は、交代は1組ずつ連続して行われなければならない。もしも、そのうち1組が不法である場合には、正規の選手交代は許可されるが、不法な選手交代は拒否され遅延行為に対する罰則が適用される。

- ① 交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- ② 複数の選手交代の要求をしたとき、1組の交代選手が遅れた場合、その交代は拒否される。
- ③ 複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- ④ 複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- ⑤ 交代選手がサービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入り、このとき副審がホイッスルしたり、記録員がブザーを鳴らした場合は、遅延の罰則が適用される。
- ⑥ 複数の選手交代のとき、パドルをベンチに取りにもどり再度選手交代を要求してきた場合は拒否され、遅延の罰則が適用される。

中体連

中体連も同様に扱う。

規則 7.3 スタートラインナップ

- 7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：
- 7.3.5.1 セットの開始前に違いを発見した場合は、選手のポジションはラインアップシート通りに改めなければならない。この場合には制裁はない。
- 7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、選手はラインアップシートどおりに変更されなければならない。この場合には制裁はない。
- 7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要があり、記録用紙に選手交代が記録される。

もしもラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻されなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

- 7.3.5.4 記録用紙の選手のリストに登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば0-25として）を失い、修正したラインナップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

- | |
|--|
| <p>1 セットの開始前、ラインアップシート通りに位置していない場合（<u>6人の選手の位置が違う場合</u>）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 副審は、<u>ゲームキャプテン</u>を呼び、チームから提出されたラインアップシートを示し、選手のポジションの確認を行う。 <p>2 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合（<u>番号の違う選手が入っている場合</u>）</p> <ul style="list-style-type: none">① 副審はラインアップシートを<u>監督</u>に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、ラインアップシートどおりに変更するよう指示する。② 監督がラインアップシートに記入されていない選手をコート上に残すことを要望する場合は、両チームのラインアップを確認後、副審は正規の選手交代を認めなければならない。この場合、監督は選手交代のハンドシグナルを示し、正規の選手交代を要求する。③ この際、ラインアップシートどおりに選手をコートに戻す。④ 副審は、ハンドシグナルを確認後、ホイッスルをし、要求を受け付け、正規の選手交代を行い、記録員に選手交代を記録させる。 |
|--|

中体連

中体連も同様に扱う。